

グリーンアジアプロジェクト

「みどりの食料システム基盤農業技術のアジアモンスーン地域応用促進事業」

1. 背景

現在の世界の食料システムは多くの課題に直面しており、2021年9月に開催された国連食料システムサミットでは、持続可能な食料システムへの変革が不可欠であることが示されました。

世界の食料システムの変革を促進するためには、生産から消費、廃棄に至るすべてのプロセスで幅広いイノベーションを生み出す必要があります。このような観点から、我が国では、食料システムの変革に貢献しうるスマート農業・林業・水産業を含む農林水産業および食品関連分野における最新の科学、技術及びイノベーションの開発と実装のための取り組みが行われています。

2021年5月、農林水産省は、持続可能な食料システムの変革の達成に向けて、食料・農林水産業の生産性を高め、持続可能性を確保するための国家戦略として、「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

我が国の食料システムを変革するために開発された技術やアイデアの中には、高温多湿、稲作を主体とした農業、中小規模の農業者の割合が高いなどの特徴を共有するアジアモンスーン地域に適用可能なものが多くあると考えられます。同地域に適用可能な技術を実証し、普及することにより持続可能な食料システムを構築する活動を加速するため、農林水産省は2022年4月に「みどりの食料システム基盤農業技術のアジアモンスーン地域応用促進事業」を立ち上げました。同事業については、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター（国際農研）が「グリーンアジア」として実施していきます。

2. 目的

本事業は、アジアモンスーン地域の食料システムの変革に貢献するため、国際連携の体制整備、情報発信、及び国際農研及びその他国内の研究機関のネットワークを活用した共同研究を通じて、同地域への基本的な農業技術（以下「基盤農業技術」という。）の適用を加速させることを目的としています。

3. 期間

2022-2025年度

4. 対象地域

アジアモンスーン地域

5. 活動

(1) 「みどり戦略」に資する国際連携の体制整備と情報発信

① 「国際科学諮問委員会」の設置

国際科学諮問委員会は、優れた科学者および/または主要な農業研究機関/大学の幹部で構成されます。委員は、プロジェクトによって生成されたレポートやその他の成果物について助言やコメントを行います。

② 「みどりの食料システム国際情報センター」の設置

国際農研内に「みどりの食料システム国際情報センター（以下「国際情報センター」という。）」を設置します。同センターは、研究成果やプロジェクトの成果を収集・分析・管理・発信する拠点としての役割を果たします。

③ アジアモンスーン地域の基盤農業技術の確立と情報発信

国際科学諮問委員会の助言の下、国際情報センターは、研究結果を分析し、アジアモンスーン地域で適用可能な基盤農業技術を特定し、国際会議やレポートにより発信します。プロジェクト期間中にレポート等を発行します。

(2) 共同研究による基盤農業技術の応用加速

国際共同研究により基盤農業技術を実証します。また、研究成果をもとに報告書やマニュアルを発行します。